

第7回 健康寿命をのばそう！アワード〈母子保健分野〉自治体部門 取組概要

自治体名	福岡市城南区保健福祉センター
取組タイトル	育児をするパパを応援する「パパスクール城南」の取り組み
WEB サイト URL	http://www.city.fukuoka.lg.jp/jonanku/chiikifukushi/kusei-shisetsu/chiiki-hoken-fukusika/papaschool-jonan.html
健やか親子 2 1 (第2次)取組課題 ※当てはまるものに✓ (複数可)	<input checked="" type="checkbox"/> 基盤課題 A「切れ目ない妊産婦・乳幼児への保健対策」 <input type="checkbox"/> 基盤課題 B「学童期・思春期から成人期に向けた保健対策」 <input checked="" type="checkbox"/> 基盤課題 C「子どもの健やかな成長を見守り育む地域づくり」 <input type="checkbox"/> 重点課題①「育てにくさを感じる親に寄り添う支援」 <input type="checkbox"/> 重点課題②「妊娠期からの児童虐待防止対策」

1. 取組の背景

核家族化や転勤等で身近に支援者がいないため、母親一人に育児負担が集中している現状がある。また、「イクメン」も増えている一方で、夫婦のコミュニケーションのずれから、父親の対応が母親の育児負担軽減になっておらず、そのことが母親の育児不安やストレスのきっかけになっている。しかし、育児技術の講座はあるが、夫婦コミュニケーションを学ぶ講座がほとんどない。また、父親が育児を積極的になっても、父を取り巻く環境（企業等）が仕事との両立を難しい現状があり、父親もストレスを抱えやすくなっているが、その気持ちを共有する場がほとんどない状況である。

2. 目的

①育児を通して父親が母親の妊娠・出産を理解し、物理的にも精神的にも支え、その結果、夫婦関係がより良好となり、母親の育児負担が軽減され、夫婦で協力して育児をするようになること。②父親同士の交流を図ることにより、父親が子育ての担い手としてより活躍できるようになること。③父親が子育ての担い手となることで、社会の意識も変わり、社会全体で育児をする環境となること。

3. 対象者 <父親になる予定の方、又は1歳未満の乳児の父親>

選定の理由は、女性の愛情曲線（作成：東レ経営研究所 渥美由喜）において、夫への愛情のピークは結婚直後で、出産を機に急降下し、子どもへの愛情が急上昇する。その後徐々に回復していくグループと低迷していくグループに二分化される。この時期に、より良い夫婦関係づくりを学ぶことが、家庭の基盤づくりにとても重要であると考えたため。

4. 講座について <2回コース、定員：各回20名程度>

ねらいとして、NPOファザリングジャパン九州の講師による男性目線での「子ども・妻との関わり方」などの講話で、良好な家族・夫婦関係のコミュニケーションを学ぶ機会とし、助産師の講話から、出産前後の母の心と体の変化を知り、妻をサポートするポイントを知る機会とした。また、父親が産後の育児に取り組みやすくなるように、「沐浴」や「親子遊び」、「救急法」などの育児に関する内容を提供。そして、コミュニケーション傾向を知るためのアンケートを実施し、傾向を分析し、解説したものを受講後に送付している。

5. 成果について

<アンケート結果より>・「妻の話をよく聞くようになった」という方が、受講前50%から受講後は88%へ増えた。

・「育児や家事をするようになった」という方が、受講前73%から受講後は85%へ増えた。

<まとめ>①夫婦間コミュニケーションが良好となることで、夫婦で協力した育児となり、母親の育児負担が減り、育児不安やストレスが軽減する。②子育てを担う父親同志が交流することで、エンパワメントされ、父親の育児ストレスが減る。③子育てを担う父親が増えることで、社会全体で育児をする環境が促進される

6. 今後の展開

父親が子育ての担い手となることで、社会の意識も変わり、社会全体で育児をする環境となるために、夫婦コミュニケーションを主軸とした育児講座が広く実施されるように、NPO法人や医療機関（産科・小児科）、大学と連携して講座等を展開していく。



産前産後の心と体の講話



夫婦コミュニケーションの講話



父親同士の交流会